

中東地域におけるイスラムを中心とした人々の水とのかかわり

砂地・乾地農学サブコース 水利用学分野 岩瀬 輝彦

キーワード：水、中東、水不足、イスラム、ヨルダン

1. Introduction はじめに

地球の表層には約 14 億 km³の水が存在する。しかし、その内 97.5%は人が利用するには不向きな海水として存在し、残りの 2.5%のほとんどが氷山などの固体として存在する。実際に人が使える水はごくわずかであり、しかも、そのわずかな水も世界に偏在している。日本ではあまり気にすることのない資源ではあるが、乾燥地域での水は希少であり、その水に対する考え方はとてもシビアである。今や世界に広がるイスラム教はそんな乾燥地域で興り、広がっていった宗教である。ここでは、乾燥地域の中でも中東地域におけるイスラムを中心とした人々の「水」に対する考え方を見ていく。なお、本研究は文献調査をもとにイスラム圏からの留学生への聴き取り調査を交えて進めた。

2. Situation of Middle East 中東の状況

中東地域の水事情は、一言で表すと「水不足」につきる。世界の人口は2025年には約80億人まで増加すると予想されているが、その増加傾向は中東地域でも例外ではない。表1は各国の人口の推移を示したものである。地球上の乾燥地でもっとも人口が多いとされる中東地域は、2025年には今の3億人から3億5000万人まで増加すると予想されている。人口が増加すれば当然のことながら水需要は高まっていく。しかし、新たな水資源は期待できず、中東諸国の一人当たりの供給可能水資源量は図1に示すように年々減少している。

表1 中東各国ならびに世界・日本の人口の推移

(単位：千人)

	1955	1990	2000	2025	増加率
World	2,755,823	5,263,593	6,070,581	7,851,455	1.29
Japan	89,815	123,537	127,034	123,444	-0.97
Jordan	665	3,254	5,035	8,116	1.61
Israel	1,748	4,514	6,042	8,598	1.42
Lebanon	1,613	2,712	3,478	4,554	1.30
Syria	3,997	12,717	16,560	26,979	1.63
Saudi	3,593	16,554	22,147	39,751	1.79
Iraq	5,911	17,341	23,224	41,707	1.80

人口が増加すれば当然のことながら水需要は高まっていく。しかし、新たな水資源は期待できず、中東諸国の一人当たりの供給可能水資源量は図1に示すように年々減少している。

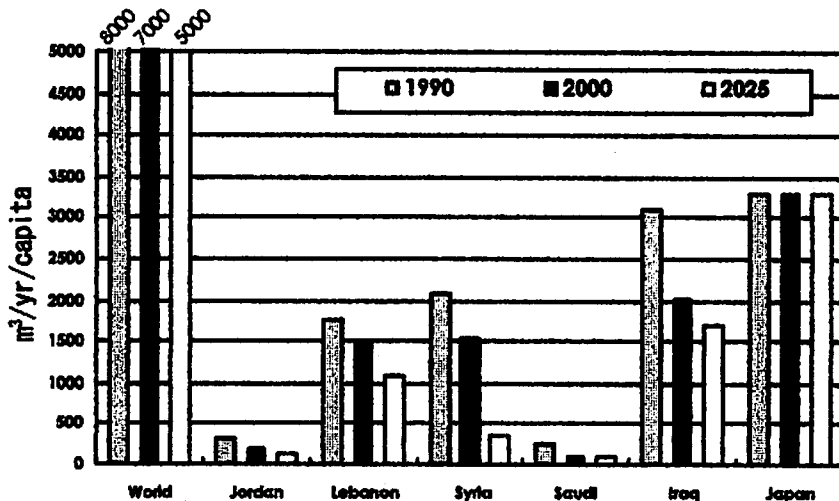


表2 水問題のひっ迫度の分類

(単位：m³/yr/capita)

分類	供給可能水量
ごく限られた問題	>10,000
一般的問題	1,670-10,000
緊迫した問題	1,000-1,670
恒常的水不足	500-1,000
絶対的水不足	<500

by Malin Falkenmark, 1989

図1 中東各国ならびに世界・日本の一人当たりの供給可能水量

3. Islam イスラムの世界

イスラム教は、世界三大宗教のひとつに数えられる。7世紀前半にアラビア半島の商人ムハンマドが神より啓示を受けて創始された宗教である。その信者イスラム教徒の人口は世界で10億人と、キリスト教徒の20億人に次いで2番目である。唯一神で偶像崇拜は厳しく禁止されている。イスラム教にはコーラン、ハディース、シャリーアといった宗教上の規範が存在する。

コーラン：イスラム教の聖典でイスラム教徒にとってもっとも重要な生活や行動の規範である。114章6233節から成立している。このコーランの中に水に関する項目は63節あるが水に関して規定をしているものではない。

ハディース：ムハンマドの言行を伝える預言者言行録である。その数はコーランが有限であるのに対して無限に近く、膨大な量がある。コーランに次ぐ第2の規範である。膨大な量の中に水に関しての規定があったとしても把握できないのが実情である。

シャリーア：コーランとハディースをもとに集めたムスリムの実生活上の宗教や日常に関する様々な事柄を規定したものである。シャリーアの語源は「水を共有する」を意味する言葉である。

イスラムという宗教面からの決まりはこの3つから成り立っている。教義は信徒間の相互扶助であり砂漠という水の乏しい不毛の地で興った宗教的な一面が感じられる。

4. Jordan ヨルダン

中東地域のイスラム国を代表する国のひとつである。19世紀までオスマントルコ帝国の支配下にあったがそれまでコーランやハディースがこのヨルダンでは唯一の法律とされていた。その後、包括的な規定をした法律が制定され、英国の統治の後には幾度か新しい法律が古い法律に取って代わっている。現在のヨルダンでは全ての水資源はNatural Resources Authority (N.R.A.)の管理下にあり、その基本姿勢は「水を共有する」という伝統的なイスラム法シャリーアに反しているように思われる。そして、N.R.A.は国内での水使用に関して許可証を発行し、水の使用をコントロールしている。しかし、許可証の発行には地域の環境や水競合の状況、農業用、工業用などの使用目的、伝統的な優先度等が考慮される。例えば、伝統的な優先度に関しては、現在に至るまでの法律・規則において土地の権利が正当に登録されているならば、その土地に産出する水の使用権はその土地の所有者に帰属する。このように全ての水資源がN.R.A.の監督下にあるとされていても、その使用にはイスラムの考えが盛り込まれている。

5. Study 考察

ヨルダンでは水資源の中央集権化によりN.R.A.がその管理・運営をしている。そして同時に、そこにはイスラム教の「自然の地表水は公共財」という概念が存在している。中東地域ではどの国もヨルダンと同じように水資源がひっ迫している。中東地域の国々はこの厳しい水事情の状況にあるが故に、より一層まとまって水問題に取り組んでいく必要がある。しかし、現状ではイスラム国同士であっても様々な社会事情を背景に水を巡って争いをしている。イスラムの教えにある相互扶助や公平の概念を機軸として、今こそイスラムの国々だけではなく、ユダヤ教のイスラエルに対しても助け合いながら水問題の解決に向けて取り組んでいかなければならない。古代ユダヤの水法律も基本的にはイスラムのそれと共通する部分が多く、原点に立ち返って、限られた水資源のもとで共存する道を探求することができれば少なからず一歩前進できると考える。

参考文献

FAO (1973):Water laws in moslem countries vol.1 pp.97~116

World Water Council (2002):Water Vision for the Twenty-first Century in the Arab World pp.17~25

小杉泰(1994):イスラームとは何か その宗教・社会・文化 講談社 pp.47~86 pp.117~143

北村義信(2002):水利用学1 テキスト pp.7